

■ 震災復興メモリアル事業として考えられる仙台市の事業と取組状況

【テーマ毎】

事業名	現在の取組み状況
テーマ1 東部地域における緑の復興	
ふるさとの杜再生プロジェクト (建設局百年の杜推進課)	・平成25年度事業として、荒井土才敷公園(若林区)で市民植樹を実施。平成26年度以降も市民植樹をはじめとした「植える」「育てる」「支える」の取組を継続するにあたり、より多くの市民の方々の参画を目指し、国・県・諸団体・NPO等と連携強化しながら、支援呼び掛けを含めた活動の仕掛け・PR展開を検討。
海岸公園再整備事業 (建設局公園課)	・海岸公園復興基本構想および基本計画をもとに平成26年度より災害復旧に着手し、平成29年度末の完了を目指すこととしている。防災の視点から、災害復旧と並行して公園内に避難の丘を整備する。
テーマ2 歴史的資産としての貞山運河の利活用について	
【参考】貞山運河再生・復興ビジョンと災害復旧工事(宮城県)	・県では様々な主体が連携し、復興のシンボルと誇れる貞山運河として再構築を図ることを趣旨として、平成25年5月「貞山運河再生・復興ビジョン」策定。ビジョンに基づく取組みの推進体制として「貞山運河再生復興会議」設立に向けた準備会をこれまで2回開催。
桜植樹 (建設局百年の杜推進課)	・宮城県が進める「貞山運河再生・復興ビジョン」の主要施策に位置付けられており、官民連携した植樹活動の実現へ向け、「ふるさとの杜再生プロジェクト」との情報共有・協力体制を構築。
テーマ3 東日本大震災における遺構保存及び東部地域におけるモニュメント整備について	
荒浜地区遺構保存〔荒浜小学校校舎、住宅基礎群〕(復興事業局)	・荒浜小学校校舎の遺構保存を検討するための前提条件として、構造的な調査を平成25年度実施。調査結果等を踏まえ、今後地域のご意見を伺いながら、保存・活用について検討を行う。
地域モニュメント整備 (復興事業局)	・東部地域のモニュメント整備について、今後地域にお住まいだった方々の意見を伺いながら整備方針の検討を行う。
テーマ4 震災アーカイブの利活用について	
宮城県被災地域デジタル化推進事業(復興事業局)	・宮城県及び県下一部市町村との連携により、震災関連資料の収集を行い、それらの資料をデジタル化すると共に、蓄積されたデータをWeb上で公開する。現在各局課が所有する震災関連資料の点数、内容等の確認を行っている。
3.11震災文庫 (教育局市民図書館)	・震災後の平成23年5月から震災に関する書籍・新聞・行政資料・その他様々な資料を、購入・寄贈などにより収集し市民図書館内に専用コーナーを設置。平成26年3月末時点で4,309点所蔵。
フォトアーカイブ 東日本大震災—仙台復興のキセキ(総務局広報課)	・被害状況や、国内外から寄せられる温かい支援を力に、厳しい試練を乗り越えて復興へと歩み続ける仙台のまちの姿を、写真で綴るアーカイブをウェブサイトで発信。
資料レスキュー活動・市史編さん事業(教育局博物館市史編さん室)	・被災民家や小学校、市施設などに関して、資料のレスキューや一時保管を行う。また、機関誌などにおいて、津波被災地域の歴史叙述や、歴史地震・津波に関する内容掲載。併せて展示活動や震災パネル「仙台平野の歴史地震と津波」の貸出など、普及啓発活動を実施している。そのほか、避難所資料約250点を収集。
資料レスキュー活動・津波痕跡の発掘調査(教育局文化財課)	・被災した文化財のレスキュー作業(収蔵遺物の洗浄・整理)を市民の協力のもと実施。また約二千年前の大津波の痕跡が見つかった沓形遺跡や、荒井広瀬遺跡に関する調査取りまとめ。また沓形遺跡の津波堆積層はぎ取り標本を他県大学協力のもと作成し、東北歴史博物館への貸出を行うなど展示協力を行っている。
津波被災地域の民俗資料展示 (歴史民俗資料館)	・昭和年代にまとめた荒浜地区、七郷地区の民俗に関する調査報告書を震災後ホームページにて公開している他、企画展等で津波被災地域の被災前の生業等を記録した映像や写真の展示を行っている。
るねっ・サイエンス事業 (教育局科学館)	・「科学・理科教育で未来を明るくしよう」というスローガンのもと各種事業実施。研究報告のなかで東日本大震災関連調査として蒲生干潟の調査内容をまとめたほか、震災復興イベントの開催、被災した「おしかホエールランド」や「歌津魚竜館」から預かった資料の公開などを行っている。
仙台市 震災記録誌 (復興事業局)	・地震発生から1年間における仙台市の活動等を様々なデータと共に取りまとめ平成25年3月に発行。 ・平成28年度に発生から5年間の記録誌を作成する予定。
オーラルヒストリー (復興事業局)	・市民、ボランティア、民間企業など多くの方たちの被災体験や復興にかける想い、また被災地域の記憶などを伺いながら広く集約し、後世に伝える取組を行う。既存の関連事業・類似事業を鑑みながら実施方針について検討中。
3がつ11にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)	・市民、専門家、スタッフが協働し、復旧・復興のプロセスを発信、記録していくプラットフォームとして開設。平成26年6月末時点で一般人、映像作家ら169人参加、映像789件、写真48,606枚、音声23件が寄せられた。日本語及び英語のウェブサイトの一部資料を公開している。
RE:プロジェクト(市民局文化復興課・仙台市市民文化事業団)	・震災で甚大な被害を受けた地域を対象に、失われてしまうかもしれない暮らしや文化について地域住民から聞き取りをもとに記録する事業。集落ごとの暮らしの姿を言葉でまとめた「RE:プロジェクト通信」の発行や、住民とともにイベントをつくり上げながら食文化の姿を伝える「オモイデゴハン」に取り組む。
国連防災世界会議 仙台開催実行委員会ホームページ(総務局国連防災世界会議準備室)	・防災・復興情報発信プロジェクト「ミライのキズキ」を展開。青森、岩手、宮城、福島を対象に、市民取材チームが防災や復興に関する取り組みを取材しウェブサイトで発信している。
伝える学校 (市民局市民協働推進課)	・市民ひとりひとりが自分の「伝える視点」を持って世代や地域を越えて今回の震災からの経験を伝えていくことができるよう、そしてプログラムをとおして市民自身が震災メモリアルの構築に参加できるよう、講義やゼミ等多様なプログラムを提供しながら、市民の「伝えたい」を発信する場づくりに取り組む。
アーカイブ拠点整備	・検討中 ※本日の議事(3)参照

【その他】

東日本大震災仙台市追悼式 (総務局秘書課)	・亡くなられた方々の冥福を祈り復興への誓いを新たにするため、追悼式を開催。
--------------------------	---------------------------------------